

平成22年度事業報告

事業報告

1. 平成22年度優秀業績の表彰

平成22年度優秀業績については慎重に検討された結果、

後藤 元氏 (杏林大学医学部第1内科学教室) 他3名

「Antimicrobial susceptibility of pathogens isolated from more than 10,000 patients with infectious respiratory diseases: a 25-year longitudinal study」

(Journal of Infection and Chemotherapy Vol. 15, No. 6, p347-360)

以上、1件に二木賞が授与されることとなった。

池辺 忠義氏 (国立感染症研究所細菌第一部) 他6名

「Highly Frequent Mutations in Negative Regulators of Multiple Virulence Genes in Group A Streptococcal Toxic Shock Syndrome Isolates」 (PLoS Pathogens, Vol. 6, Issue 4, e1000832)

上記の研究業績に対して日本感染症学会北里柴三郎記念学術奨励賞が授与されることとなった。

2. 講演会

平成22年4月5日、6日、京都市・国立京都国際会館において第84回学術講演会を上田孝典 会長のもとに開催した。

- | | | | |
|---|---|--|---------------------|
| a | 会員の業績研究発表 | ワークショップ：145題 | ポスター：343題 |
| b | 特別講演 | | 2題 |
| | 1 嫌気性菌の薬剤耐性の現状 | 司会：京都大学大学院医学研究科微生物感染症学 | 光山 正雄 |
| | | 岐阜大学生命科学総合研究支援センター嫌気性菌研究分野 | 渡邊 邦友 |
| | 2 発熱性好中球減少症のマネージメント | 司会：福井大学医学部内科学(1) | 上田 孝典 |
| | | 福岡大学医学部腫瘍・血液・感染症内科 | 田村 和夫 |
| c | 招請講演 | | 6題 |
| | 1 Discovery of New Anti-HIV and Anti-Hepatitis Virus Agents | 司会：熊本大学医学部血液内科感染免疫診療部 | 満屋 裕明 |
| | | Yale University School of Medicine | Yung-Chi Cheng |
| | 2 Clinical Management Issues for Patients with 2009 Pandemic Influenza A (H1N1) Virus Infection | 司会：大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学 | 廣田 良夫 |
| | | Centers for Disease Control and Prevention | Timothy M. Uyeki |
| | 3 Microbial biofilms : Evolution from the Bench to the Patient (ASM-JAID Joint Lecture) | 司会：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座 | 河野 茂 |
| | | Case Western Reserve University | Mahmoud A. Ghannoum |
| | 4 感染症診療・感染制御地域ネットワーク | 司会：杏林大学医学部第一内科 | 後藤 元 |
| | | 東北大学大学院医学系研究科感染制御・検査診断学分野 | 賀来 満夫 |
| | 5 ヒト腸内常在菌叢のゲノム科学 | 司会：滋賀県立成人病センター | 笹田 昌孝 |
| | | 東京大学大学院新領域創成科学研究科附属オーミクス情報センター情報生命科学専攻 | 服部 正平 |
| | 6 動物由来細菌感染症の分子疫学的研究 | 司会：島根大学医学部微生物免疫学 | 富岡 治明 |
| | | 国立感染症研究所 | 渡邊 治雄 |
| d | 教育講演 | | 22題 |
| | 1 C型肝炎ウイルスの病原性発現機構 | 司会：佐賀大学医学部内科 | 長澤 浩平 |
| | | 福井大学医学部微生物学 | 定 清直 |
| | 2 抗菌薬の考え方、使い方2010年バージョン | 司会：京都大学医学部臨床病態検査学 | 一山 智 |
| | | 神戸大学感染症内科 | 岩田健太郎 |
| | 3 感染症専門医は何名必要か？ | 司会：北里大学北里生命科学研究所特別研究部門 | 砂川 慶介 |
| | | 日本感染症学会感染症専門医制度審議委員会、横浜市立大学附属病院感染制御部 | 満田 年宏 |
| | 4 感染症治療薬の臨床薬理 | 司会：東京女子医科大学感染対策部感染症科 | 戸塚 恭一 |
| | | 同志社女子大学薬学部臨床薬理学 | 森田 邦彦 |
| | 5 感染症の病理～感染症医療における病理診断の重要性と病理医の役割～ | 司会：岐阜大学生命科学総合研究支援センター嫌気性菌研究分野 | 渡邊 邦友 |
| | | 藤田保健衛生大学医学部第一病理学 | 堤 寛 |
| | 6 医療ケア関連肺炎 (Healthcare-associated pneumonia : HCAP) | 司会：名古屋市緑保健所 | 鈴木 幹三 |
| | | 倉敷中央病院呼吸器内科 | 石田 直 |
| | 7 感染症研究に必要な疫学の基礎知識：ワクチンと抗ウイルス薬を例として | 司会：医薬品医療機器総合機構安全第2部 | 佐藤 淳子 |
| | | 大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学 | 廣田 良夫 |
| | 8 好中球の殺菌作用—活性酸素の役割 | 司会：京都府立医科大学大学院免疫・微生物学 | 今西 二郎 |
| | | 京都大学医学部附属病院血液・腫瘍内科 | 山下 浩平 |
| | 9 日和見感染症から、セカンド・オピニオンを経て、医療崩壊・医療倫理へ | 司会：信楽園病院 | 青木 信樹 |
| | | 健保連大阪中央病院 | 平岡 諒 |

10	Surgical Site Infection (SSI) サーベイランスの活用による医師とICNのパートナーシップ	司会：神戸大学医学部附属病院感染制御部 兵庫医科大学病院感染制御部	李 宗子 一木 薫
11	腸管出血性大腸菌感染症の治療を目的とした志賀毒素中和剤開発に向けての基礎的研究	司会：阪大微生物病研究会 岐阜薬科大学生命薬学大講座微生物学研究室	本田 武司 森 裕志
12	救急で注意すべき感染症	司会：東京慈恵会医科大学感染制御部 福井大学医学部附属病院総合診療部	小野寺昭一 寺沢 秀一
13	結核の診断におけるクオオンティフェロン検査の有用性	司会：日本赤十字社和歌山医療センター呼吸器科 NHO 近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター	西山 秀樹 鈴木 克洋
14	社会政策としての感染症対策	司会：慶應義塾大学医学部救急医学 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科環境社会医歯学系専攻医療政策学講座政策科学分野	相川 直樹 河原 和夫
15	細菌のバイオフィーム形成と治療薬の開発	司会：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学 筑波大学大学院生命環境科学研究科	公文 裕巳 野村 暢彦
16	HIV感染症の進歩と変化	司会：東北大学 国立国際医療センター戸山病院エイズ治療・研究開発センター	服部 俊夫 岡 慎一
17	論理的創薬による人獣共通感染症の治療薬開発	司会：京都薬科大学 岐阜大学人獣感染防御研究センター	西野 武志 桑田 一夫
18	抗酸菌感染症における感染制御の進歩	司会：金沢医科大学医学部血清学 大阪市立大学大学院医学研究科細菌学	山口 宣夫 松本 壮吉
19	遺伝子解析技術を用いた感染症迅速診断の実践	司会：東邦大学医学部微生物・感染症学講座 岐阜大学大学院医学系研究科病原体制御学分野	山口 恵三 大楠 清文
20	慢性真菌感染症，最新の知見	司会：神戸赤十字病院 長崎大学病院第2内科	守殿 貞夫 掛屋 弘
21	感染症鑑別診断における臨床検査のポイント	司会：産業医科大学泌尿器科学教室 虎の門病院中央検査部，臨床感染症部	松本 哲朗 米山 彰子
22	ICTにおける技師と他職種（医師を含む）とのコラボレーション	司会：京都大学医学部附属病院 大阪大学医学部附属病院感染制御部検査部	田中美智男 浅利 誠志
e	感染症レビュー		4題
1	MDRPおよびVRE感染症に対する対策	司会：東京医療保険大学大学院 埼玉医科大学感染症科・感染制御科	品川 長夫 前崎 繁文
2	日本紅斑熱	司会：大阪市立総合医療センター 馬原医院	阪上 賀洋 馬原 文彦
3	ノロウイルス感染症の現状と対策	司会：岐阜医療科学大学 藍野大学藍野健康科学センター（東京）	木村 吉延 牛島 廣治
4	嫌気性菌感染症レビュー	司会：愛知医科大学大学院医学研究科感染制御学 岐阜大学生命科学総合研究支援センター嫌気性菌研究分野	三嶋 廣繁 田中香お里
f	特別報告		1題
	三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス事業	司会：北里大学北里生命科学研究所特別研究部門	砂川 慶介
	三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス実務委員会	東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門	渡辺 彰
g	会長シンポジウム		1題
	ヒト・微生物・薬剤関係からみた感染症，最新の知見	司会：福井大学医学部内科学（1） 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座	上田 孝典 河野 茂
1)	宿主（ヒト）からみた感染症	帝京大学医学部微生物学講座	斧 康雄
2)	微生物の立場から	長崎大学病院	柳原 克紀
3)	薬剤の立場より	慶應義塾大学医学部臨床薬理学	谷川原祐介
4)	3者（ヒト・微生物・薬剤）相互関係とサイトカイン	福井大学医学部内科学（1）	岩崎 博道
h	特別シンポジウム		1題
	新型インフルエンザについて	司会：東京大学医学部研究所 国立感染症研究所	岩本 愛吉 岡部 信彦
1)	新型インフルエンザウイルスの登場とその病原性	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	田代 真人
2)	新型インフルエンザについて対策一年目を振り返る	国立感染症研究所感染症情報センター	岡部 信彦
3)	新型インフルエンザの5月前駆波と第一波の経験	神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科・感染症科・感染管理室	林 三千雄
4)	抗インフルエンザ薬による治療と効果	神奈川県警友会けいゆう病院小児科	菅谷 憲夫
5)	新型インフルエンザウイルスワクチンの免疫原性と安全性	国立病院機構三重病院小児科	庵原 俊昭
6)	日本感染症学会の「提言」と「診療ガイドライン」について	東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門	渡辺 彰
i	シンポジウム		7題
1	各種感染症への戦略～我が国と諸外国を比較して	司会：京都大学医学部臨床病態検査学 佐賀大学医学部附属病院感染制御部	一山 智 青木 洋介
1)	感染症診断への戦略	自治医科大学臨床感染症センター感染症科	矢野 (五味) 晴美
2)	肺炎	大阪大学医学部附属病院感染制御部	朝野 和典
3)	深在性真菌症	帝京大学医学部附属溝口病院第4内科	吉田 稔
4)	感染症診療におけるグローバリゼーション～Pros and Cons～	愛知医科大学大学院医学研究科感染制御学	三嶋 廣繁
2	セブシスの治療はここまで進んだ	司会：神戸大学大学院医学研究科 兵庫医科大学感染制御学	荒川 創一 竹末 芳生

1) セブシス救命キャンペーンガイドライン2008の概要と評価	兵庫医科大学感染制御学	竹末 芳生
2) 敗血症における循環管理の進歩	千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学	仲村 将高
3) 敗血症患者に対する血糖管理	岡山大学病院集中治療部	江木 盛時
4) セブシスに対するステロイド療法	名古屋大学大学院医学系研究科救急・集中治療医学分野	松田 直之
5) セブシスに対する抗菌薬療法～de!escalationを中心に	京都府立医科大学集中治療部	志馬 伸朗
3 悪性腫瘍の成因となる感染症—予防と治療—	司会：奈良県立医科大学感染症センター	三笠 桂一
1) 肝炎ウイルスによる肝癌に対する分子標的治療	琉球大学医学部感染病態制御学講座（第一内科）	藤田 次郎
2) HIVと悪性腫瘍	奈良県立医科大学第3内科（消化器・内分泌代謝内科）	吉治 仁志
3) HTLV-1と発癌	長崎大学病院感染制御教育センター	安岡 彰
4) ヒト乳頭腫ウイルス（HPV）と癌—その予防ワクチンを含めて—	琉球大学大学院医学研究科病原生物学分野	森 直樹
5) ヘリコバクターと胃癌	神戸大学大学院医学研究科	荒川 創一
4 我が国における渡航医学の現状と問題点	大分大学医学部環境・予防医学講座	山岡 吉生
1) 渡航医学の概要と日本での現状	司会：千葉大学真菌医学研究センター臨床感染症分野	亀井 克彦
2) 海外渡航に伴う真菌症とその現状	関西医科大学公衆衛生学講座	西山 利正
3) 我が国における渡航医学の現状と問題点，渡航者下痢症の現状と問題点	労働者健康福祉機構海外勤務健康管理センター	濱田 篤郎
4) 輸入蚊媒介性発熱疾患の現状と問題点	千葉大学真菌医学研究センター臨床感染症分野	亀井 克彦
5) 渡航者に対する予防接種の現状と問題点	東京都保健医療公社荏原病院感染症内科	角田 隆文
5 ダニ関連細菌感染症，特にリケッチア症の新たな展開	関西医科大学公衆衛生学講座	西山 利正
1) リケッチア感染症の病態とサイトカイン動態から何がみえてくるか	国立病院機構三重病院小児科	中野 貴司
2) ダニ関連細菌感染症における遺伝子検出の意義と課題	司会：福井大学医学部	高田 伸弘
3) 最近本邦でも確認されたアナプラズマ症，その実態と今後の課題	岡山県環境保健センター	岸本 寿男
4) 形態学からみえてくるリケッチアのマダニ共生微生物としての存在様式	福井大学医学部内科学（1）	岩崎 博道
5) 日本紅斑熱の感染源の実態—島根半島をモデルとして—	国立感染症研究所ウイルス第一部	安藤 秀二
6) 本邦におけるリケッチア症の多様性—特に新型紅斑熱の出現による新たな展開	静岡県立大学食品栄養科学部微生物学研究室	大橋 典男
6 ICT が介入したい手術部位感染対策	福井大学医学部病態医学講座	矢野 泰弘
1) 手術医学と感染制御学との接点を求めて	島根県保健環境科学研究所	田原 研司
2) SSIサーベイランスと周術期感染対策	大原総合病院附属大原研究所	藤田 博己
3) 外科医の立場を尊重した感染対策への助言	司会：藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院耳鼻咽喉科	鈴木 賢二
4) 清潔手術におけるSSI対策	愛知医科大学大学院医学研究科感染制御学	三嶋 廣繁
5) SSI対策へのICTの介入	神戸大学大学院医学研究科	荒川 創一
7 日本のエイズ対策は失敗しているのか	NTT東日本関東病院外科	針原 康
1) HIV/AIDSの動向と発見率	山形大学医学部附属病院検査部・感染制御部	森兼 啓太
2) わが国のエイズ対策のあゆみと施策の現状	武蔵野赤十字病院整形外科 ICT	山崎 隆志
3) 男性同性間のHIV感染に対する予防と検査の啓発について	三重大学大学院医学系研究科先端の外科技術開発学	小林美奈子
4) NGOの立場から	司会：東京通信病院	木村 哲
5) 医療体制，長期療養問題などについて	国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター	白阪 琢磨
j パネルディスカッション	藤田保健衛生大学医学部衛生学講座	橋本 修二
1 感染症の遺伝子診断の進歩と今後の方向性	厚生労働省健康局疾病対策課	渡辺顕一郎
1) 未知のウイルスの迅速検出法（RDV法）	名古屋市長立大学大学院看護学研究科・感染症学	市川 誠一
2) ウイルス疾患（アデノウイルスなど）の迅速診断	特定非営利活動法人おれいす東京	池上千寿子
3) 直接培養法で検出できない少数の糞便細菌の迅速な遺伝子検査法	国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター	白阪 琢磨
4) 呼吸器細菌感染症の迅速診断		7題
2 デバイス関連感染；予防から治療まで	司会：藍野大学藍野健康科学センター（東京）	牛島 廣治
1) カテーテル関連血流感染；予防	東邦大学医学部微生物・感染症	館田 一博
2) カテーテル関連血流感染；治療	国立感染症研究所ウイルス第1部	水谷 哲也
3) 尿路カテーテル関連感染症；予防	国立感染症研究所感染症情報センター	藤本 嗣人
4) 尿路カテーテル関連感染症の予防と治療	岐阜大学大学院・医学系研究科・病原体制御分野	江崎 孝行
5) 病院感染サーベイランスを活用した人工呼吸器関連肺炎予防	北里大学大学院感染制御科学府感染症学研究室	高橋 孝
6) 人工呼吸器関連肺炎；治療	司会：兵庫医科大学感染制御学	竹末 芳生
3 予防接種の現状と今後の課題	大阪大学医学部附属病院感染制御部	朝野 和典
1) インフルエンザ菌b型（Hib）ワクチン	兵庫医科大学病院感染制御部	一木 薫
2) 小児用肺炎球菌ワクチン	医療法人川崎病院外科	井上 善文
3) インフルエンザウイルス	神戸大学大学院医学研究科外科系講座腎泌尿器科学分野	田中 一志
4) ロタウイルス	兵庫医科大学泌尿器科	山本 新吾
5) 性感染症におけるワクチン	NTT 東日本関東病院	木下 佳子
	大阪大学医学部附属病院感染制御部	朝野 和典
	司会：神戸市立医療センター中央市民病院小児科	春田 恒和
	川崎医科大学小児科学講座	尾内 一信
	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院小児科	西 順一郎
	千葉大学医学部附属病院小児科	石和田稔彦
	国立病院機構三重病院小児科	中野 貴司
	労働者健康福祉機構大阪労災病院小児科	川村 尚久
	東京慈恵会医科大学附属青戸病院泌尿器科	清田 浩

4	耐性菌をめぐる諸課題～医療のみの問題か～	司会：酪農学園大学獣医学部食品衛生学 東邦大学医学部微生物・感染症学講座 東邦大学医学部微生物・感染症学講座	田村 豊 石井 良和 石井 良和
	1) 医療領域における抗菌薬耐性菌		
	2) 家畜における薬剤耐性菌の分布	農林水産省動物医薬品検査所	浅井 鉄夫
	3) 伴侶動物における薬剤耐性菌の分離状況	酪農学園大学獣医学部食品衛生学	田村 豊
	4) 野生動物が保有する耐性菌	岐阜大学応用生物科学部獣医微生物学研究室	福士 秀人
	5) 海洋における薬剤耐性遺伝子の分布とその伝達メカニズムー養殖場からペンギンまで	獨協医科大学医学部微生物学講座	野中 里佐
5	敗血症病態における種々細胞の役割	司会：帝京大学医学部微生物学講座!内科感染症診療 京都大学医学部附属病院血液・腫瘍内科 岩手医科大学医学部救急医学講座 防衛医科大学校外科	斧 康雄 山下 浩平 遠藤 重厚 辻本 広紀
	1) 敗血症における液性因子とそれをターゲットとした治療効果の検討		
	2) 敗血症の病態形成における単球, ならびに樹状細胞の役割		
	3) 敗血症病態における好中球の病態生理ー好中球内免疫関連遺伝子の発現変化を中心にー	帝京大学医学部微生物学講座	祖母井庸之
	4) 敗血症病態における血管内皮細胞障害	名古屋大学大学院医学系研究科救急・集中治療医学分野	松田 直之
6	4学会(臨床微生物, 環境感染, 化学療法, 感染症)の連携を考える	司会：東京慈恵会医科大学 神戸大学大学院医学研究科 東京医科大学微生物学講座	柴 孝也 荒川 創一 松本 哲哉
	1) 日本臨床微生物学会から	横浜市立大学附属病院感染制御部	満田 年宏
	2) 日本環境感染学会から	国立病院機構東京医療センター	岩田 敏
	3) 日本化学療法学会から	東京慈恵会医科大学附属青戸病院泌尿器科	清田 浩
	4) 日本感染症学会における関係学会との連携	司会：昭和大学医学部臨床感染症学 長崎大学病院	吉田耕一郎 柳原 克紀
7	簡易検査法の利点と限界	亀田総合病院総合診療・感染症科臨床検査科 JR 札幌病院小児科 永寿総合病院小児科	細川 直登 成田 光生 三田村敬子
	1) 現在使用されている簡易検査法の現況	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座(第二内科)	泉川 公一
	2) マイコプラズマIgM抗体迅速検出キットの有用性と限界		
	3) インフルエンザ迅速診断法の現状と今後		
	4) 肺炎球菌抗原検出法の臨床的意義		
k	卒前・卒後教育企画「症例から学ぶ感染症セミナー」	司会：静岡県立静岡がんセンター感染症科 東京医科大学微生物学講座	大曲 貴夫 松本 哲哉
l	ランチョンセミナー		1 4題
	1 血液内科における感染症への対応ー造血細胞移植後早期の感染管理ー	司会：北海道大学大学院医学研究科血液内科学分野 亀田総合病院血液・腫瘍内科	今村 雅寛 末永 孝生
	2 重症感染症の管理にあたって臨床医として知っておきたいストラテジー	司会：長崎大学病院 愛知医科大学大学院医学研究科感染制御学	河野 茂 三嶋 廣繁
	3 肺炎治療の最前線ー感染病巣におけるPK-PDー	司会：東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門 東邦大学医学部微生物・感染症学講座	渡辺 彰 館田 一博
	1) 肺炎の病原体診断：ガイドラインの応用から新しい検査法まで		
	2) 気管支鏡下マイクロサンプリング法による薬物動態評価の有用性	北海道大学大学院医学研究科呼吸器内科学分野	西村 正治
	4 発熱性好中球減少症の真菌感染症に対する治療戦略	司会：帝京大学医学部附属溝口病院第四内科 岩手医科大学医学部内科学講座血液・腫瘍内科分野	吉田 稔 石田 陽治
	5 肺アスペルギルス症の完治を目指して	司会：杏林大学医学部第一内科 埼玉医科大学病院呼吸器内科	後藤 元 金澤 實
	6 わが国における成人への予防接種(adult immunization)今後の展開について	司会：国立感染症研究所感染症情報センター 国立病院機構福岡病院	岡部 信彦 岡田 賢司
	7 新型インフルエンザとその対策	司会：長崎大学医学部・歯学部附属病院感染制御教育センター 神奈川県けいゆう病院小児科	安岡 彰 菅谷 憲夫
	8 2009年パンデミック新型インフルエンザを再考するー細菌感染の重要性を含めてー	司会：長崎大学病院 東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門	河野 茂 渡辺 彰
	9 耐性菌時代における抗菌薬化学療法最適化のための新しいストラテジー	司会：東北大学大学院医学系研究科感染制御・検査診断学分野 愛知医科大学大学院医学研究科感染制御学	賀来 満夫 三嶋 廣繁
10	HIV感染者におけるHBVの動向と治療上の問題点	司会：国立病院機構大阪医療センターHIV/AIDS先端医療開発センター がん・感染症センター都立駒込病院感染症科	白阪 琢磨 味澤 篤
11	HIV/AIDS診療ー最近の動向ー	司会：東京慈恵会医科大学感染制御部 がん・感染症センター都立駒込病院	小野寺昭一 菅沼 明彦
12	日本における医療ケア関連肺炎(HCAP)の診療をどう考えるか	司会：昭和大学医学部臨床感染症学講座 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座(第二内科)	二木 芳人 関 雅文
13	Febrile neutropenia診療のピットフォール	司会：近畿大学医学部 帝京大学医学部内科学	金丸 昭久 秋山 暢
14	抗MRSA薬の耐性動向とその対策	司会：東邦大学医学部微生物・感染症学講座 大阪大学医学部附属病院感染制御部	山口 恵三 朝野 和典

- m イブニングセミナー 2題
- 1 非定型病原体の耐性について 司会：長崎大学病院 河野 茂
JR 札幌病院小児科 成田 光生
杏林大学医学部第一内科 後藤 元
- 1) マイコプラズマ感染症の発症機構と薬物療法の原則
- 2) 非定型病原体の最新エビデンス
- 2 侵襲性カンジダ症治療におけるアムホテリシンB脂質製剤の位置づけを考える 司会：昭和大学医学部臨床感染症学 二木 芳人
愛知医科大学感染制御学 三嶋 廣繁

- n ICD講習会 1題
- 抗菌薬適正使用のためにICDがすべきこと 司会：東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門 渡辺 彰
昭和大学医学部臨床感染症学 二木 芳人
千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部 猪狩 英俊
東邦大学医学部微生物・感染症学講座 館田 一博
NTT東日本関東病院薬剤部 田中 昌代
東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門 藤村 茂
- 1) ICDの役割
- 2) 分離菌・薬剤感受性サーベイランス成績の活かし方
- 3) 抗菌薬使用量モニタリング成績の活かし方
- 4) PK-PDを活かした抗菌薬療法

- 平成22年10月30日福井市・フェニックス・プラザ小ホールにおいて、市民のための公開シンポジウムを主催した。
感染症でおこるがん-がんの予防をめざして 司会：東京大学医科学研究所 岩本 愛吉
福井大学医学部 上田 孝典
福井大学医学部 上田 孝典
- 序論：感染症とがん、みえてきた関係
- 基調講演
- 1) 胃がんとピロリ菌感染 神戸大学大学院医学研究科内科学講座消化器内科学分野 東 健
2) 肝臓がんと肝炎ウイルス 近畿大学医学部附属病院 工藤 正俊
3) 子宮頸がんとヒトパピローマウイルス 自治医科大学附属さいたま医療センター産婦人科 今野 良
- ゲスト講演：元気な明日のために～がんに負けない～ 女優 仁科亜季子
- パネルディスカッション：3つのがん撲滅に向けて、今何をすべきか コーディネーター：朝日新聞 中村 通子

3. 雑誌刊行

- 1) 感染症学雑誌
- 84巻1号より逐次刊行した。
- 地方会学術集会プログラムを掲載した。
- 科学技術情報発信・流通システム (J-STAGE) のアーカイブサイトで創刊号より電子化され逐次公開予定。
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
- Vol.16, No.1より逐次刊行した。
- 2011年1月5日より電子投稿・査読システムを導入した。
- Vol.17, No.1より1号当りの頁数を増とした。

4. 地方会

- ・第59回東日本地方会学術集会は、平成22年10月21日、22日の両日、岡部信彦会長のもとで第57回日本化学療法学会東日本支部総会 (二木芳人会長) と合同で東京都・京王プラザホテルで行われた。
特別講演 2題、シンポジウム 2題、合同シンポジウム 2題、新薬シンポジウム 2題、ワークショップ 6題、教育講演 8題、トピック 1題、教育セミナー 2題、症例から学ぶ感染症セミナー 1題、ICD講習会 1題
一般演題 172題
参加人数 1494名
- ・第53回中日本地方会学術集会は、平成22年11月12日、13日の両日、一山 智会長のもとで京都市・京都リサーチパークで行われた。
特別講演 1題、教育講演 2題、シンポジウム 1題、教育セミナー 1題、ICD講習会 1題
一般演題 68題
参加人数 460名
- ・第80回西日本地方会学術集会は、平成22年11月19日、20日の両日、安川正貴会長のもとで松山市・松山市総合コミュニティセンターで行われた。
会長講演 1題、特別講演 2題、教育講演 3題、シンポジウム 1題、ICD講習会 1題、教育セミナー 7題、化学療法学会合同シンポジウム 1題
一般演題 109題
参加人数 286名

5. 院内感染対策講習会

1) 講習場所、期間及び人員

①. 院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会

有楽町朝日ホール	(医 師)	平成23年 1月13日、14日	106 名
	(看護師)	平成23年 1月13日、14日	171 名
	(薬剤師)	平成23年 1月13日、14日	106 名
	(臨床検査技師)	平成23年 1月13日、14日	112 名
神戸国際会議場メインホール	(医 師)	平成22年12月13日、14日	103 名
	(看護師)	平成22年12月13日、14日	170 名
	(薬剤師)	平成22年12月13日、14日	100 名
	(臨床検査技師)	平成22年12月13日、14日	99 名

②. ①の受講対象となる医療機関と連携し、各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会

フォレスト仙台	(医 師)	平成23年 1月24日、25日	44 名
	(看護師)	平成23年 1月24日、25日	54 名
	(薬剤師)	平成23年 1月24日、25日	33 名
	(臨床検査技師)	平成23年 1月24日、25日	32 名
はまぎんホールヴィアマーレ	(医 師)	平成23年 2月 1日、2日	90 名
	(看護師)	平成23年 2月 1日、2日	126 名
	(薬剤師)	平成23年 2月 1日、2日	77 名
	(臨床検査技師)	平成23年 2月 1日、2日	74 名
奈良県文化会館国際ホール	(医 師)	平成22年12月21日、22日	67 名
	(看護師)	平成22年12月21日、22日	119 名
	(薬剤師)	平成22年12月21日、22日	69 名
	(臨床検査技師)	平成22年12月21日、22日	68 名
九州大学医学部百年講堂	(医 師)	平成23年 1月27日、28日	57 名
	(看護師)	平成23年 1月27日、28日	66 名
	(薬剤師)	平成23年 1月27日、28日	40 名
	(臨床検査技師)	平成23年 1月27日、28日	41 名

③. 高度な医療を提供する特定機能病院等の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会

北里大学薬学部コンベンションセンター	平成22年11月29日、30日	185 名
合 計		2209 名

2) 講習内容

1. ①院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会

院内感染対策のシステム化・連携	45分
院内感染関連微生物（新しい話題の感染症の種類と特徴を含む）	45分
医療機関における感染制御の基本	45分
院内ラウンドの実際とそのポイント	45分
抗菌薬および消毒薬の使用と管理	45分
医療器材関連感染	45分
呼吸器感染対策	45分
周術期感染対策	45分
血液媒介感染対策・職業感染対策	45分
アウトブレイク対応の実際	45分
院内感染対策に関連する環境整備	45分
地域における感染対策のネットワーク構築	45分
院内・施設内感染関連法令	40分
パネルディスカッション	80分

2. ②. ①の受講対象となる医療機関と連携し、各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会

院内感染対策のシステム化・連携	45分
院内感染関連微生物（新しい話題の感染症の種類と特徴を含む）	45分
医療機関における感染制御	45分
高齢者介護施設における感染制御	45分
洗浄・消毒・滅菌の基本と実際	45分
抗菌薬の適正使用	45分
医療器材関連感染	45分
呼吸器感染対策	45分
血液媒介感染対策・職業感染対策	45分
周術期感染対策	45分

院内感染対策に関連する環境整備	45分
アウトブレイク対応の実際	45分
院内・施設内感染関連法令	40分
パネルディスカッション	80分

3. ③高度な医療を提供する特定機能病院等の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会

大規模施設における感染対策システムの構築	45分
感染症サーベイランス・微生物モニタリングの実際	45分
院内ラウンドの実際とそのポイント	45分
抗菌薬および消毒薬の使用と管理	45分
新興感染症への対応（パンデミックインフルエンザ対策を含め）	45分
大規模流行を起こす感染症への対応（アウトブレイク対応）	45分
感染対策に関連する環境整備	45分
感染対策教育・研修システムの構築と人材育成	45分
リスクコミュニケーション・メディア対応	45分
感染対策における情報入手と活用法	45分
地域における感染対策ネットワーク構築	45分
地域における感染対策ネットワーク構築	40分
院内・施設内感染関連法令	45分
パネルディスカッション	80分

6. 施設内感染対策相談窓口事業

平成22年 3月1日～平成22年 3月31日	質問件数	4件
平成22年 4月1日～平成23年 2月28日	質問件数	32件

7. 感染症専門医

1) 感染症専門医試験合格者 61名

(敬称略)

相野田祐介	阿部 孝典	石丸 敏之	伊住 浩史	伊藤 嘉規	稲毛 康司	今高 城治	彌永 和宏
内田勇二郎	宇留間友宣	大塚 淳司	岡本 裕子	大日方 薫	河合 泰宏	岸田 直樹	久保 健児
小林 花神	阪口 雅洋	坂本 篤彦	澤口博千代	清水 正己	白野 倫徳	高桑 良平	高園 貴弘
高野 智子	高橋 聡	竹内 元浩	楯 英毅	谷口 智宏	中島 宏和	永田 正喜	中谷 圭吾
中村 造	中村 和芳	仲村 究	中村 嗣	仲村 秀太	中村 (内山) ふくみ		能島 大輔
八田 益充	早川佳代子	久田 研	平山 泰生	藤田 崇宏	保阪由美子	保科 隆之	堀尾 直
増淵 雄	松原 悦子	松村 康史	水守 康之	宮里 明子	宮本 篤	森 周介	森永 芳智
柳澤 如樹	山口 直喜	大和 健司	吉岡 大介	吉澤 定子	吉村 大輔		

2) 更新者 137名

3) 指導医 30名

4) 感染症専門医認定研修施設 194施設 (ホームページ参照)

5) 専門医育成経過措置としての連携研修施設	研修に3年を要する施設	44施設 (ホームページ参照)
	研修に4年を要する施設	31施設 (ホームページ参照)

6) 研修施設・連携研修施設認定基準の変更 (追加項目についてはアンダーライン)

A) 施設・組織上の基準

以下の3項目をすべて満たすこと

- 1) 原則として以下の4項目のいずれかに該当すること
 - 厚生労働省が指定医する臨床研修指定病院
 - 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定施設
 - エイズ拠点病院
 - 感染症指定医療機関
- 2) 感染制御を業務とする部署あるいはInfection Control Team (ICT) があること。
- 3) 細菌検査室があること、またはグラム染色が施設内でできるようになっていること。

B) 機能上の基準

以下の4項目をすべて満たすこと

- 1) 年間の血液培養検体数が施設の病床数を超えていること、あるいは超えることが見込まれること。
- 2) 感染症研修に関連するカンファレンスまたは抄読会が定期的に行われていること。
- 3) 専門医審議委員会からの照会に応じ、研修医師が担当した感染症症例の一覧やカンファレンス、抄読会の記録、コンサルテーション症例の一覧などを提示できること。
- 4) 施設内で研修が困難な分野を補完するためのプログラムが構築されていること。

C) 臨床研修の計画概要書の記載基準

- 1) 研修の週間スケジュールの記載があること
- 2) 施設の特性・状況に適合した研修内容の記載であること。自施設で研修が困難な領域の感染症については他施設と協同した

補完的プログラムが記載されていること。

- 3) 連携研修施設申請の場合、推薦元（連携元）の研修施設との連携方法について具体的に記されていること。
また、自施設で研修が困難な領域については推薦元など他施設と協同した補完的なプログラムが記載されていること。

注：「臨床研修の計画概要」に記載する研修期間について

- ・研修施設での研修期間は3年間と記載する
- ・連携研修施設での研修期間は申請資格により以下の通り異なる
 - 1. 感染症専門医を取得して5年未満の申請者 → 3年間と記載する
 - 2. 感染症専門医ではないが、業績での申請者 → 4年間と記載する

8. ICD制度協議会

新規認定者 179名 更新者 448名

9. 提言「2010年の統括と2010/2011冬に向けた日本感染症学会の考え方」を作成（ホームページ掲載）。
10. 「予防接種制度の見直し」に関する意見を厚生労働省に提出した。
11. 予防接種キャンペーンに協力した。日本全国から2,699,019名の署名が集まった（内当学会からの署名数：18,312）
12. 「多剤耐性アシネトバクター院内感染事例の報告をうけて」を作成（ホームページ掲載）。
13. 「NDM-1およびNDM-1産生菌の特徴」を作成（ホームページ掲載）。
14. 「一般の方への情報提供：多剤耐性菌を正しく理解するためのQ&A」を作成（ホームページ掲載）。
15. 日本記者クラブにおいて「多剤耐性菌と院内感染対策」についての勉強会を行った。
16. 四学会で「多剤耐性アシネトバクター感染症に関する四学会からの提言」を作成（ホームページ掲載）、記者発表を行った。
17. 「抗MRSA薬の使用実施に関するアンケート調査（2008年）」を日本化学療法学会と合同で厚生労働省へ提出した。
18. 第84回総会学術講演会時および第59回東日本地方会学術集会時に「症例から学ぶ感染症セミナー」を開催した。
19. 第1回症例から学ぶ感染症セミナーの資料を感染症学雑誌84巻5号の付録として会員に発送した。
20. 大日本住友製薬株式会社より希少感染症例に関するアンビゾーム製造販売後調査依頼に協力した。
21. 厚生労働省医薬食品局審査管理課による「医薬品使用実態調査に関わる協力依頼」（平成22年11月5日付）を受けてメトロニタゾールに関する使用実態疫学調査を塩野義製薬株式会社と共同で実施することとなった。

庶務報告

1. 会員数 正会員：10,642名 賛助会員：23件 平成23年2月28日現在
2. 第84回日本感染症学会総会は平成22年4月5日、国立京都国際会館において行った。
3. 平成22年度評議員会は平成22年4月5日、国立京都国際会館において行った。
4. 理事会は6回行った。
5. 感染症学雑誌編集委員会は6回行った。
Journal of Infection and Chemotherapy編集委員会は7回行った。
6. 学会賞選考委員会は2回行った。
7. 専門医審議会は1回行った。専門医試験委員会は7回行った。専門医テキスト委員会は1回行った。
8. ワクチン委員会は1回行った。
9. 卒前・卒後教育企画WGは7回行った。
10. JAID/JSC感染症治療ガイド2010（仮称）作成委員会は37回行った（13ワーキンググループ）。
11. インфекションコントロール委員会は4回行った。
12. 四学会理事長懇談会は2回行った。
13. 経理事務打合会は1回行った。